

実験用中容量静止通信衛星 (CS) 実験計画

53.5.2  
郵 政 省

(CS初期点検結果の実験に与える影響)

宇宙開発事業団によるCSの初期段階における点検結果では、準ミリ波帯中継器第2チャンネルに不要波が発生し、同第6チャンネルの送信出力が消失しているとのことである。今後他の中継器に故障を生じないとした場合、これがCS実験に与える影響について検討した結果の概要は、次のとおりである。

1 準ミリ波帯中継器6系統により、鹿島、横須賀、仙台等の各局において、計3,000回線相当の多元接続などの実験を実験項目の一つとして予定していたが、準ミリ波帯中継器2系統の故障により、これを計2,000回線相当の規模に縮小しなければならぬ。  
2,000回線

この規模の縮小によつても多元接続などの基本的な特性は、は握できると考えられるが、3,000回線相当の衛星通信の確認試験はできない。

2 多元接続などの実験以外の実験項目で、故障した準ミリ波帯中継器2系統で実験を予定した項目については、これを他の中継器に移し替えて実験を行うことが必要になる。これらの実験には、カラーテレビ2ch時分割多重化伝送実験、TV電話実験、測距、電波伝搬(ダイバーシティ、降雨減衰)、小規模局アクセス実験等がある。

しかし、これら中継器固有の実験、例えば振幅周波数、雑音、入出力特性等及びFM信号、PSK信号伝送特性等については、<sup>7371</sup>移し替えの実験はできない。

3 これらの結果を総合すると、準ミリ波帯中継器第2チャンネル及び第6チャンネルの故障により、当初予定していた実験項目の一部(多元接続などの実験)に規模を縮小せざるを得ないものがでてくる。

また、その他の実験においては、実験手順に工夫が必要になる。